

臍ヘルニア

1. 臍ヘルニアとは

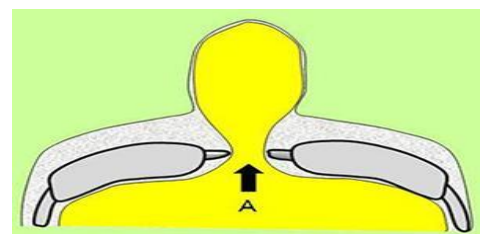
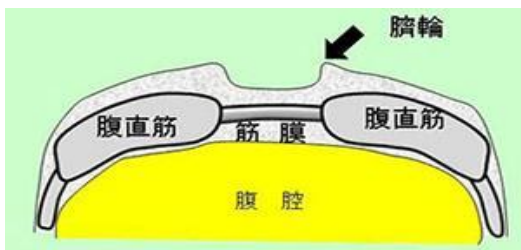
臍ヘルニアとは、いわゆる「でべそ」のことです。

生後まもなくその緒が取れた後、へその緒が通っていた穴を塞ぐために壁として、へその真下の筋肉(腹直筋、腹直筋筋膜)が形成されます。その形成される過程で、一時的に不十分で、壁の穴が閉じていない状況(筋膜部分の欠損)が生じます。すると、その穴(筋膜の欠損孔)より腸などの腹腔臓器が脱出して盛り上がります。これが臍ヘルニアです。

おなかのなかの腸が出たり入ったりするため、触れると柔らかく、圧迫するとグジュグジュとした盛り上がりを触れることができます。あかちゃんが泣いておなかに力が加わるとすぐにとび出て、泣きやんだり、静かに寝ているときは引っ込んでいます。

臍ヘルニアは、生後1か月を過ぎたころから認められ、生後3か月ごろに一番大きく膨らみます。その後は徐々に小さくなり、1歳ごろまでに80%、2歳ごろまでには90%が自然治癒するといわれています。

1~2歳を越えてもヘルニアが残っている場合や、ヘルニアは治ったけれども皮膚がゆるんでしまっておへそが飛び出したままになっている時には、手術が必要になることがあり、小児外科医に紹介します。



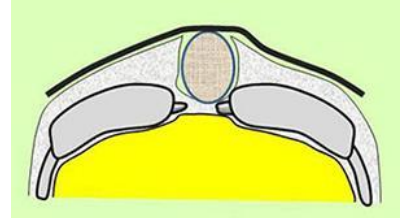
さくらキッズクリニック
sakura kids clinic

2. 臍ヘルニアの綿球圧迫固定

臍の隆起している部分を綿球などで臍の圧迫固定をすると、早期に自然治癒を促すことができるため、おすすめしております。

<方法>

- ・隆起しているへその部分に綿球を押しあてて、圧迫しながらテープをはります。
- ・貼ったまま入浴しても大丈夫です。



<テープの貼り方>

- ・**3日に1回は貼り替えてください。**
3日目の入浴前にはがして、おへそをきれいに洗ってください。



<注意点>

- ・圧迫は確実に行ってください。
泣くと臍ヘルニアが出てくる場合は貼り直してください。
- ・テープかぶれにご注意ください。
皮膚かぶれがかぶれたときは数日間テープの使用を控えると皮膚が正常にもどるので、皮膚が正常にもどったら再度圧迫法を続けてください。